

計算モデルを用いた第一言語獲得研究 —統語的・意味的言語知識の獲得を例に—

折田 奈甫¹

概要：第一言語獲得という研究分野では、「人間の子どもがどのようにして母語の知識を身につけるのか」という問いが探求されている。研究手法としては、子どもや養育者の自然発話の分析や、子どもの言語理解を調べる実験などが主流だが、近年は、計算モデルを用いた形式化とシミュレーションを行う研究が増えてきており、様々な知見や仮説が提案されている。本講演では、統語的・意味的知識の獲得に焦点を当てて、計算モデルを用いた最近の第一言語獲得研究を紹介する。

¹ 東京理科大学